

# 伊丹市文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)



## 伊丹市内ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財(史跡)のガイドをご希望される方は

伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)

または、文化財ボランティアの会にメール([ibunbora@yahoo.co.jp](mailto:ibunbora@yahoo.co.jp))でお申込みください。

### 【ガイドコース】

- A コース:有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム(旧岡田家・旧石橋家)・猪名野神社など
- B コース:猪名野神社・伊丹緑道・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など
- C コース:昆陽池・東天神社・山陽道(西国街道)・昆陽寺など
- D コース:鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など
- E コース:御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など
- F コース:有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

## 成長と活力の辰年へ向けて

会長 末次 弘幸

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

本年が皆さまにとりまして、健康で明るい、平穩で希望に満ちた一年でありますよう、お祈り申し上げます。

まず、会報「火曜会通信」は1999年(平成11)4月に創刊以来、年4回の発行を続けてまいりました。お陰さまで本号をもちまして記念の「100号」に到達しました。読者の皆さま方の長年にわたるご支援に心からお礼を申し上げるとともに、編集に携わった会員諸氏のご努力に敬意を表したいと思います。



さて、2023年を振り返りますと、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5月8日、「2類」から季節性イン

フルエンザと同じ「5類」へ引き下げられ、社会経済活動の活発化に伴い、会の活動環境もコロナ前の状況に戻りつつあります。史跡ガイドの依頼件数/人数は、2023年4月～12月の累計で25件/524人と、コロナ前の2019年度実績(26件/780人)に件数では、年度途中でほぼ匹敵する数にまで戻っている状況です。

2022年4月にリニューアルオープンした旧岡田家での館内ガイドにつきましては、春・秋に当番制でガイドを行う



ほか、団体客のガイドも担当しています。市の内外からの見学者へ向けて、旧岡田家住宅の歴史的意義や伊丹の江戸積酒造業などにつき、ご案内をしています。

一昨年6月新設の「学習支援班」は主として子ども園の年長組や小学生を対象に伊丹の民話紹介・物づくり体験の支援活動を行い、公演回

数は増加傾向の

状況です。また、「研修サロン班」では、会員を対象に伊丹の旧村や近郊の史跡などに関する勉強会や屋外研修を

毎月実施し、会員の相互研鑽に努めております。このように会の活動が活発化していることにつきましては、ひとえに会員の皆さま方の多大なるご尽力の賜物と深謝申し上げます。

2024年の干支「甲辰(きのえ・たつ)」は、十干最初の甲と十二支5番目にあたる辰の組み合わせの年になります。十干の甲は生命や物事の始まりと成長も意味し、「辰」は十二支の中で唯一の空想上の生き物「龍」のことです。辰は「振るう」という文字に由来しており自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表します。今までの努力が実を結び、成長し、活力あふれる年になるものと期待されます。

引き続き文化財について会員の相互研鑽を重ね、その成果を市民の皆さまに発信することを通じて顕彰するとともに、文化財の見守り活動などを通じて、その保護と次世代への継承に、微力ながら尽くしていきたいと思ひます。世のため人のためにささやかながら貢献しつつ、組織と会員お一人おひとりの「成長」を目指す、「活力」旺盛な一年にしたいと思ひます。皆さま方のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお祈り申し上げます。



## 火曜会通信100号発刊によせて

## 継続は力なり

松田 孝雄

今回、火曜会通信は100号発刊を迎えます。平成11年4月の創刊より年4回発行、25年を経てこの節目に到達しました。この間、歴代の会員が発刊に携わって今日に引き継がれて来ました。25年間の実績はまさに「継続は力なり」と言えるでしょう。

## 私と火曜会通信との関わり

火曜会通信100号のちょうど半分にあたる50号の発刊から約4年間、私は編集長として17回の発刊に関わりました。

私は16期生として平成23年3月当会へ入会、養成ガイドは東北大震災・原発事故で世の中が騒然としていた最中でした。その5月に何のめぐり合せか火曜会通信の編集をやらないかと前任者から誘いがありました。藪から棒の話でしたが若い頃に組合通信の編集に関わったことがあり、まあ何とかなるだろうと引受けました。まだ入会2か月で会の様子も会員の名前もよく分からない時点で、今から思うと随分いい加減な話です。これが私の火曜会通信との関わりの始まりです。見よう見まねで何とか8月には50号を発刊、これが編集長としてのデビューです。4年後の平成27年8月発刊の66号をもって次期編集長にバトンタッチして頂きました。

「ゆく河のながれは絶えずして、  
しかもとの水にあらず」

藤原 眞佐美

火曜会通信100号の発刊おめでとうございます。

平成23年(2011)春に入会してから12年。その間6年ほど火曜会通信の編集委員として活動しました。まず私の心に浮かんだのが、タイトルにつけた方丈記の冒頭の一節です。さらさらと流れゆく河の水は絶えることがありません。しかもよく見てください。新しい水と常に入れかわって、勢いよく変化していますというような意味と理

## 原稿集め

編集作業は会員から原稿を集めることから始まります。しかし投稿を待っているだけではなかなか集まりません。各イベントに関する原稿は担当者事前に依頼しておきます。また長期間にわたって原稿の確保ができる「シリーズもの」を企画しておくことが有効です。既に退会されたYさんには「思い出の世界遺産」を長期にわたって投稿して頂き、随分と協力してもらいました。

その他に年始めの2月号には「年男・年女」、賞味期限がなく何号にも掲載できる「ガイド豆知識」、「小さな町の文化財」シリーズを立ち上げました。これらは現在も掲載されています。



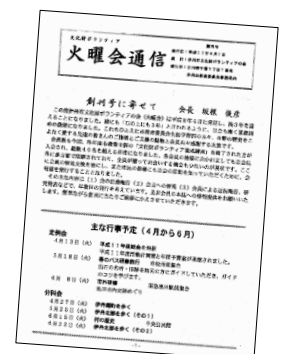
小さな町の文化財シリーズ  
第1回「行基橋の親柱」

## 火曜会通信のこれから

これまでは紙に印刷して配布することが当然のことでしたが、今やデータ化によるペーパーレスの時代に移行しています。今後、火曜会通信はどのような形態になるかはわかりませんが、末永く発刊を重ねて行くことを願ってやみません。皆様とともに火曜会通信を盛り上げていきましょう。

解し、当会の歩んできた姿と重なったわけです。在籍された方々の顔ぶれは変われども、新しい会員を迎え、文化財ボランティアの会の活動は脈々と続いています。

平成28年(2016)5月、「会結成20周年特集号」の火曜会通信を発刊。私も編集委員の一人として携わりました。当会は「阪神淡路大震災」の翌年、平成8年(1996)の第1回養成講座を修了された



25 名によって結成されました。私たち編集委員は、20 年の歩みをまとめるため、創刊 1 号からの掲載記事を読みました。先輩諸氏は震災の被害がまだまだ残る市内の文化財をめぐり、屋内外の研修・研究発表・市民ガイドなど熱意を持って活動された足跡を目の当たりにしました。

100 号発刊にあたり、その特集号を改めて読



み返しました。特集号には 1 期生から 19 期生の会員が、結成 20 周年に寄せる思いを綴った記事があります。ある 1 期生の方が「震災後、発音寺を見学し

た折に、三面大黒天立像がバラバラになり本堂の床に並べられていた」「被害のあった各名家に残る古文書が廃棄されないように、ボランティアの大学生が走り回って集め、博物館に保管した」など生々しいエピソードを書かれていました。

正月早々の北陸の大地震をはじめ、脅威を感じる自然災害が多発する昨今の日本。決して他人ごとではない現実です。私たちの活動も変化を余儀なくされることがあるかもしれません。しかし、「ゆく河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず」。これからも変化に対応しながら活動が脈々と続いていくことでしょう。

## 市民ガイド(令和5年度第3回)

### 「初訪問! 豊中市勝部遺跡収蔵庫」



10 月 28 日、令和 5 年度 3 回目の市民ガイド『初訪問! 豊中市勝部遺跡収蔵庫』を開催。

今回の市民ガイドは、弥生時代の人々の暮らしをあらゆる遺跡、遺物を巡り、弥生時代の暮らしについて理解を深めることを目的として企画しました。当会としては初訪問となる豊中市勝部遺跡収蔵庫まで、大阪空港周辺の縄文時代・弥生時代の遺跡等を巡る約 5km の見学コースを、会員 5 名(末次会長、本郷、久保田、松永、吉岡)で案内。参加者は、伊丹在住 2 名、尼崎在住 1 名に当会会員 3 名がエキストラで加わり 6 名でした。昨年度の「空港周辺の弥生時代遺跡ロマン散策」では 13 名が参加されていたので、多くの参加が期待できるかと(密かに)思っていたのですが、参加人数については残念な結果となりました。

今回の市民ガイド企画のきっかけは、「炭素 14 年代法」や「DNA 分析」などの分析手法の進歩により古代の様相が大きく変わりつつあり、私自身が中高生で学んだ縄文時代・弥生時代とはその様相が大きく異なるところに興味を持ち始めた時に、某 TV 番組の「伊丹空港は遺跡の宝庫! 出土品から見える弥生時代の暮らし(放映時間約 15 分)」を Youtube で見たことです。特に、豊中市勝部遺跡収蔵庫に保存されている 10 基の木棺墓・土壌墓の中から石槍の刺さった人骨や鏃(やじり)が残されたままの遺体が見つかるなど、すでに弥生時代には「争い」があったことを物語る発見があったとされていることに興味を抱いたところに、常時公開されていない施設だと知り、それなら当会市民ガイドで訪問してはどうかと考えた次第です。

最初のパークセンター北展示コーナーでは、「弥生時代」の全体像について末次会長から紹介していただいた後、旧石器時代から古墳時代にかけての時代の変遷を各展示内容に基づいて本郷さんから紹介していただきました。次に、スカイパークに 5 ヶ所設けられている「神津の遺跡出土品クイズ」の 4 ヶ所にて、レプリカを見な

がらクイズ内容について久保田さんから紹介していただきました。

岩屋遺跡の灌漑遺構(レプリカ)では、当灌漑施設の仕組みと特徴について松永さんより紹介していただきました。

田能資料館・屋内外の展示施設については当館学芸員の方に紹介していただきました。屋外施設



では、平成 11 年以来、23 年ぶりに建て替えられた高床式倉庫(昨年 11 月竣工)の「ネズミ返しの作り」や円形平地住居、方形竪穴住居の特徴等について紹介していただきました。屋内施設の出土品展示の紹介では、「食器の類はその形状の少しの変化からでも当時の人々の暮らしぶりを知ることができる。」という説明が印象に残りました。

最後に、千里川土手筋を通過して空港滑走路に隣接する豊中市勝部遺跡収蔵庫を訪ねました。

収蔵庫は、豊中市より収蔵庫ガイドを委託されている特定非営利法人 NPO とよなか・歴史と文化の会理事・山田様から紹介していただきました。10 基の木棺墓・土壌墓が整然と並べられた施設内は肅然とした空気が漂っていました。



9 時 20 分にスタートした今回の市民ガイドは、12 時 30 分に終了。集合場所のスカイパーク北センターから解散場所のバス停・宮河原橋まで約 5km という行程は、市民ガイドとしては少し長い距離となりましたが、各スポットで丁寧な紹介を行いながらも、ほぼ予定通りに歩くことができました。参加人数は少なかったものの、中身の濃い市民ガイドではなかったかと思います。

(吉岡 記)

## 令和 5 年度 伊丹市文化財保護啓発事業に参加

### 歴史散策『有岡城跡と南・西の砦跡を巡る』

11 月 3 日(祝・金)は朝から良い天気、ガイド途中気温 25 度のカンカン照りになり、参加者の中には慌ててジャケットを脱ぐ人が出てくる程でした。

締め切り間近に参加者は募集定員の 15 名ピッタリとなりました。参加者が 2、3 名だった今年度 3 回の市民ガイドと違い、市主催で文化財保護啓発事業のパンフレットが市内外に多数配布されたことも良かったのだと思います。参加者は比較的若い人も混じった老若男女で、近隣の町だけでなく京都に近い大阪府島本町からの方もおられました。

カリヨン塔の下で伊丹市文化振興課の中畔主幹、文化財ボランティアの会末次会長のあいさつに続き、玉浦リーダーからガイドポイントとメンバーの紹介があり、いざスタートとなりました。

まず『有岡城跡』のパネルの前で惣構の城の歴史、次いで史跡公園で石垣や礎石などについて説明がありました。ここでガイド担当の玉浦さんが「有



岡城は石垣で築かれたことが確認できた最古の城です」と言った言葉に、熱心な城マニアと思われる参加者からの自説展開というハプニングがありました。『荒村寺』についての案内の後、破戦道(ハセンドウ)の上から惣構東側の崖を皆さんに実地見聞して頂きました。

その後きつい日差しの中、惣構東側の崖を右に、左に有岡小学校を見ながらのロングウォー

キング、やがてJRの線路下の低いトンネルをくぐり抜けて3番目のポイント『杜若寺』へ到着。ここで暑さのためにジャケットを脱いでバッグにしまい込む数名の参加者を見つけました。お寺の歴史



東リインテリア歴史館外観

史の解説の後、気を付けながら墓地に入らせていただきました。

すぐ東の『東リインテリア歴史館』では休日の為、

正門前で配布したパンフレットに沿って東リ株式会社の歴史とインテリア館の沿革などの解説がありました。さらに『猪名野笹原旧蹟』の案内の後、杜若寺でコース唯一のトイレ休憩を実施、皆さんホッとされた様子でした。

ここで折り返しです。JRの踏切を横切り大阪道を北へ。左手に惣構南端の堀跡を見ながら右手の民家奥に見える竹林、「鶴塚砦跡」について写真を使つての説明がありました。

さらに北上し7番目のポイント『正覚寺』では日差しを避けて向かいのマンションの出入口横で、花丸天井や鐘楼門等について大きな手書き用紙を使つての案内がありました。

次のポイント『墨染寺』に向かう道中、先頭の道案内末次会長が小道に入る曲がり角を見誤って回り道をする事になりました。メンバーは

“あれ？予定変更で何か特別に案内したいポイントがあるのかな？”と思いながらついて行きました。後で会長に聞くと“曲がり角を間違つた”とのこと。“弘法にも筆の誤り”のハプニングでした。もっとも参加された皆さんには分からなかったと思いますが。

墨染寺から閉館となった伊丹シティホテル前

を通り、三井住友銀行西側の鬼貫生家跡と言われる場所にある『鬼貫句碑』についての解説。そして最後のポイント『三軒寺』の説明が終わりその場でガイド終了の挨拶、解散となりました。スタートもエンドも



ほぼ予定時間通りの市民ガイドでした。三軒寺前広場では文化振興課の岩田さんの出迎えもありました。

11月にしては少し暑かったけれど、歩くにはいい塩梅な天気の下、事故も無く終わることが出来、また参加者のみなさんの満足顔を見てホッとしました。

最後に、28期生の皆さんのよく工夫されたガイドで、自信たっぷりの説明が良かったです。間違いなく我々の強い戦力になると思います。

(山本 記)

## 市内史跡一斉清掃・文化財保護団体等紹介パネル展示



市内史跡一斉清掃には、11月25日(土)有岡城跡に8名、御願塚古墳に6名が参加し、12月9日(土)の伊丹廃寺清掃には2名が参加しました。

また、11月1日(水)～15日(水)に総合教育センターで開催されたパネル展で、日々の活動を紹介するパネルが展示されました。

## 研修旅行(令和5年10月17日)

## 『織田信長ゆかりの安土城下を歩く』

2023年10月17日、伊丹市文化財ボランティアの会主催の研修旅行「織田信長ゆかりの安土城下を歩く」が実施され、世話役を務めた。

安土城は、織田信長が天下統一へ向けて、その拠点として1576年(天正4)から約3年の歳月をかけて築いた。琵琶湖畔の近江国安土山(標高199m)に建ち、地下1階地上6階建て、高さ約32メートルの大型天主を持つなど、それまでの城にはない独創的な意匠で絢爛豪華な城であったと推測され、近世城郭に大きな影響を与えた。

本能寺の変後焼失したが、高く築かれた石垣や大きな礎石を使った天主跡、本丸御殿跡など近世城郭の先駆けとなった遺構が現在も残っている。信長天下統一への夢の跡を巡り、往時の信長に思いを馳せてみようという趣旨である。

当日は爽やかな秋晴れに恵まれた。午前8時にJR伊丹駅改札口に参加者12名全員が集合。8時14分の大阪行き快速に乗り、尼崎駅で新快速草津行きに乗り換えた。大阪駅で大半の乗客が下車し、全員席を確保して、安土へ向けて一直線のつもりだった。車内アナウンスに耳をすますと「快速野洲行き」と言っている。乗り間違えたのである。

新大阪で全員下車。次に来る新快速草津行きに乗り換えて、事なきを得た。

午前9時51分安土駅到着。いざ、出陣である。駅前の安土城郭資料館で、城の概要を把握してから、現地へ向かう。途中セミナリヨ跡伝承地に立ち寄る。



午前11時ごろ入山料700円を支払って、安土城跡に足を踏み入れる。大手門からの大手道は幅6mと広く約180mも直線が続くが、石段が急勾配で、登ろうとする人の

前に立ちはだかる。道沿いに残る羽柴秀吉などの家臣や織田信忠など一族の屋敷跡を確認しながら、天主へ向けて登っていく。二の丸跡にある信長廟所で参拝し、天主跡まで登り切り、そこからの絶景を眺めることができた。また、天主跡のそばで滋賀県の発掘調査隊と出会い、激励の言葉をかけた。



山から降りる時は別のルートで、摠見寺跡に立ち寄る。大手道の登り口に全員が揃ったのは午後1時過ぎ、文芸の郷レストランで昼食を終えたのは午後2時近かった。想定した時間より30分遅れた。昼食休憩後は安土城天主信長の館・安土城考古博物館の見学を予定していたが、天主の館を30分で見学し、博物館見学はとりやめざるを得なかった。午後2時30分に館前で集合し、JR安土駅へ急いだ。



午後3時20分安土駅発の電車に乗り込む。野洲駅で新快速に乗り換えて、伊丹駅に戻ったのは午後5時1分のことだった。

研修旅行と銘打っており、参加者が少しでも安土や信長に関する興味・知識・知見を増やしてくれるように、世話役として最大限の努力をしたのはもちろんのことながら、それよりも大事な目標は会員相互の親睦を図ることであると考えている。この機会に、参加者が積極的に交流を図り、親睦を深めることができたのであれば、望外の喜びであり、世話役冥利に尽きるというものである。

(末次 記)

## 研修サロン班活動報告

令和5年10月19日 宝塚市・小浜宿を訪ねて(近隣市シリーズ)

快晴のすがすがしい気候のなか総勢13名の参加で実施した。阪神電鉄バス「小浜」バス停から北へ、国道176号線バイパスの高架下をくぐると大堀橋にでる。

この大堀川が「小浜宿(こはまじゅく)」をぐるっ



毫摂寺(ごうしょうじ)

と回り込んで  
いるのが想像  
できる。

これから行く  
「南門」「東門」  
「北門」の外側  
を堀の要塞と

しての体をなしているのであろう。広くはないが整備された道の住宅街からぱっと視界が広がると毫摂寺(ごうしょうじ)が待ち受けている。十六八重表菊の皇室紋章の軒丸瓦と塀には白い5本の定規筋線が引かれていることから、このお寺の格式の高さが想像できる。

小浜宿資料館では江戸時代の小浜宿を再現したジオラマを使って丁寧な説明を受けた。資料館は山中鹿之介幸盛を祖先とした山中家住宅の敷地に建設されており、豊臣秀吉がこの井戸から汲んだ水で、千利休に茶をたてさせたという名水「玉の井」の井戸も見学した。堂坂遺跡から出土した壺の中の古銭は壮観であった。

まだ小浜が瀬戸内海の浜であった時代、鰯を荷揚げしたと伝えられる「いわし坂」を下る。京都市東福寺の通天橋を彷彿とさせる溪谷



旧和田家住宅

の橋を渡り和田家住宅に到着する。

ここでも管理人の方から丁寧な説明を受けた。いわし坂の北に位置し、小浜宿の北門からは外に出ている。旧米谷村の庄屋だった宝塚市最古の住宅で宝塚市指定文化財に指定されており、約300年前の生活が十分に偲ばれる。しかし、阪神淡路大震災までここに生活されていたため、昭和の香りも感じられる。また、玄関に掲げられた「甲山」の油絵は、昭和10年頃の風景が描かれているが田園風景をみると、当時の「宝塚地域」の中心は、ここ小浜周辺であったことがわかる。京都の泉涌寺を思わせる山門を入ると眼下正面に本堂が待ち受ける加藤清正ゆかりの本妙寺もまた訪れたい。

南門を西宮街道へ出た道に、首地藏とよばれる首だけの大地蔵がある。由来は諸説



首地藏

ある。1975年に新しい首地藏も安置された。

やはり、宝塚は坂が多かった。しかし本日のコースならば大丈夫。「小浜宿」を感じさせる。道路。案内板。道標。それらに五感を研ぎ澄ませて自然を感じながら歩く。キンモクセイの香り、鳥のさえずり、川のせせらぎ、雲の流れ、森の木々の揺らぎ、額や腕に当たる秋風、加えて秋祭りの練習だろうか、太鼓の音。等々、こうして今散策出来ることに感謝しつつ、今日もたっぷり2時間5000歩のコースでした。

幹事の本郷様お疲れ様でした。

(足立 記)



## 令和5年11月15日 清盛のベイエリア開発と兵庫津ミュージアム(近隣市シリーズ)

好天に恵まれた11月15日(水)初めて乗る神戸地下鉄海岸線にワクワクしながら、三宮駅を後にして神戸中央市場駅へ立ち寄りました。

近代的な建物、広い道路、少し歩くと兵庫運河、それに沿って魚屋さん、佃煮屋さん、八百屋さん、船宿などが軒を連ねていました。運河では釣り船の乗客が2人で鰯と河豚を釣り上げて喜んでる様子を横目に見ながら、「大和田泊の石椋」につきました。

20個も発掘されたという4トン級のこの花崗岩の巨石は、宋との貿易を始めた清盛が大型外洋船の寄港地として、港湾施設の整備に使用したものです。

2~3分歩くと西国29番札所「来迎寺」に到着です。このお寺には松王入梅の碑とお墓が祀られています。清盛の港湾工事が難航している時に30人の人柱をたてようとしたが、若干17歳の松王丸が進んで身代わりとなり、工事は見事に完成しました。痛く感心した清盛は、松王丸の供養塔を立て丁寧に弔いました。少し行くと入江橋のもとに、「清盛くん像」とキャナルプロムナードの道標が建っています。



運河沿いに「兵庫城跡」の石碑があり、池田信輝・輝政親子によって築城されたということ。また江戸時代中頃から明治にかけて、北前船が寄港した様子が残されています。明治に入り新川運河が造られ、城跡は川底になってしまいました。そしてここには兵庫県庁が設けられ、初代知事として伊藤博文が就任しました。少し行くと「清盛塚」と称する一角があります。9メートルにも及ぶ十三重石塔「清盛塚」がそびえ立ち、隣に琵琶塚がやはり堂々と並んでいます。清盛の

甥にあたる琵琶の名手、平経正の碑です。またそこには明治41年に地元の有志によって、平清盛像も建立されました。威風堂々とした一角でした。

次に進むと広い敷地の中に静かな佇まいの「真光寺」があります。時宗一遍上人が全国遊行の途中にこの地に立ち寄られ、観音堂にてご入寂されたお寺です。ここで踊りながら、お念仏を唱えていらっしやっただけでしょう。

午後は「兵庫ミュージアム」ダイナミックシアターで歴史ミュージアムを鑑賞、隣接した復元施設の初代県庁館、伊藤博文の執務室などを見学しました。

清盛ワールドを感じさせられた兵庫津でしたが、彼なしではこの地の発展はなかったでしょう。そしてこの地には長い歴史を感じさせられる地域資源が、今尚多くのこされていることを知りました。

実り豊かな一日でした。(参加者10名)  
担当の村さんお疲れ様でした！

(本郷 記)



## 令和5年12月21日 神津地区～口酒井・森本～(旧村シリーズ)

12月21日と押しつまった中、今年一番の寒さとなりましたが、神津地区を松永さんのご案内で巡りました。

荒村寺前を通り、神津大橋を渡って神津公園を抜けると、酒井村の氏神であった『春日神社



春日神社

(県重要文化財指定)』に出ます。酒井村(明治に口酒井に変更)が洪水を避けて、1580年に猪名川右岸の中州から左岸の現在地に移って、同時期に移転したと思われ、1641年本殿建立時の棟札が残ります。鴻池大工松原氏によるもので、意匠的に鴻池神社との繋がりが認められます。酒井村の寺は浄土真宗玄徳寺で、もともと1576年念仏道場として開かれました。その後1641年に玄徳寺と称されました。道場としての色彩が強く、一般住宅建築の様相です。阿部備中守正次の墓(伊丹市文化財指定)が近く、松源寺(跡?)にあります。正次は三代目大坂城代を務め8万6千石を領しました。

任期中の1647年79歳で没し、生前お気に入りによく訪れた酒井村で火葬に付され、墓も設けられました。現在は、本堂(庵)など撤去され跡には雑草が高く生い茂って墓前にも近づけず、入口付近の案内板から墓を覗いて解説を聞きました。

口酒井遺跡は付近の田能遺跡にもつながる

縄文・弥生時代の代表的な遺跡で、その一画が有料駐車場で、角に大きな解説板が設置されています。次の森本に入る前に、マシューチョコレート工場直売所でかわいい手づくり感たっぷりのチョコを買いました。

法高山行善寺は浄土宗寺院です。1574年行善和尚開山の行善寺(中央2丁目にあった)が明治に廃寺、再興される中、森本にあった1633年日誉岩公和尚開山



法高山行善寺

の法高寺が明治に廃寺となって、建物のみ残っていました。この地にて大正11年に移転が許可され、現在に至りました。

途中神津小学校前の斎藤茂吉歌碑を見学して、森本村の氏神であった加茂神社と隣接の浄土真宗称名寺(城主森本氏の氏寺であったとされる森巖庵の跡に建てられた)を回ります。森本氏は伊丹氏の庶子家でしたが、伊丹氏とともに没落しました。

最後は口酒井遺跡から2017年桑津に移転開設した、伊丹市埋蔵文化財センターを見学して終わりました。たくさんの資料を探して研究され、寒い中ご案内いただいた松永さん、熱心な解説ありがとうございました。

(村 正司 記)

### 【研修サロン班 活動報告】

■宝塚市・小浜宿・・・(勉強会)10月5日(木) (屋外研修)10月19日(木)

■清盛のベイエリア開発と兵庫津ミュージアム

(勉強会)11月2日(木) (屋外研修)11月15日(水)

■神津地区～口酒井・森本～・・・(勉強会)12月7日(木)

(屋外研修)12月21日(木)

### 【研修サロン班 活動予定】

■御願塚・・・(勉強会)2月1日(木) (屋外研修)2月15日(木)



## 広報マン奮闘記「ケーブルテレビ Baycom のガイド取材」

それは文化財ボランティアの会のアドレスに、ケーブルテレビ Baycom「このまち夢いっぱい」の番組制作担当者から11月20日に届いた1本のメールから始まった。

「テレビ取材の申し込みで連絡をさせていただきました。当番組は社会貢献・SDGs 目標達成に向けて活動をしている団体・企業・行政の取り組みをご紹介します。番組です。

2024年1月の放送にて”文化・歴史の継承”というテーマで取材を行っており、伊丹市文化財ボランティアの会様が取り組む、文化財巡りやそれをさらに後世に伝える取り組みを当番組で紹介させて頂けないでしょうか？取材可否のお返事を11月24日（金）までに頂ければ大変幸いです」。

番組の趣旨と当会の活動目的が合致していることに加えて、Baycomについては過去にも取材を受けたことがあり、また会の広報活動につながるのと考えから、取材対応する旨、返信した。



先方からの史跡ガイドに同行したい、それも12月中に取材したいとの要望を受けて、12月8日に実施の鴻池・荒牧地区の史跡めぐりに同行取材してもらうこととなった。

取材に先駆けて、12月1日に番組構成作家と電話で45分ほど打ち合わせをした。伊丹市文化財ボランティアの会の概要、活動内容、ガイドのエリア・対象・方法などについての質問に答える。さらに、「文化財を守ることの重要性」と「ガイドを

通して伝えたい思い」について訊かれ、次のように答えた。

「文化財は国民・市民の貴重な共有財産であり、先人たちから受け継いだ大切なもの。我々の世代でもしっかりと守り、次世代へ受け継いでいかなければならないと思っております。意思をもって守っていかないと、開発の波に洗われてなくなってしまうかねない。

街角に建つ小さな祠などは、その歴史や価値をあまり知られず、マンション建設の際などに、撤去されていたというケースをよく目にしていますので、私たちは出来るだけ多くの人に、伊丹の歴史や文化財の価値を伝え、未来へ残す。そんなことを意識して活動しています」。

街角に建つ小さな祠などは、その歴史や価値をあまり知られず、マンション建設の際などに、撤去されていたというケースをよく目にしていますので、私たちは出来るだけ多くの人に、伊丹の歴史や文化財の価値を伝え、未来へ残す。そんなことを意識して活動しています」。

12月8日は快晴、季節はずれの温暖な天候に恵まれた。約20名の参加者とテレビカメラを携えたディレクターが、清酒発祥の地・鴻池からスタートして、聖徳太子の伝説が残る荒牧まで、約2時間の史跡めぐりを行った。テレビカメラ同行のガイドだったが、緊張することもなく、普段どおりのガイドをすることができた。5度目のテレビ取材であり、カメラ慣れしているようだ。

史跡めぐりが

終わった後、最後のガイドスポットである荒牧の天日神社で、テレビカメラを前にして、ディレクターからの上記と同様の質問に答える様子が収録されて、取材が無事終了した。さて、どんな番組に仕上がるやら。放送は1月後半の予定である。

(末次 記)



## 活動記録 (11月～1月)

【定例会】・11/14 (火) ・12/12 (火) ・1/16 (火)

【史跡ガイド】・11/3 (金) 伊丹市文化財保護啓発事業 歴史散策・11/6 (月) Aコース (高齢者大学 大阪市)・11/15 (水) 旧岡田家住宅他 (散策の会 尼崎市)・11/23 (木) Aコース (趣味同好会 川西市)・11/25 (土) Aコース (ハイキング同好会 豊能市)・12/16 (土) Aコース (個人 小松島市)・1/28 (日) Aコース (個人 神戸市)

【研修サロン班】活動記録詳細と予定はp8～p10に記載しています。

【学習支援班】紙芝居公演 11/30 (木) 神津福祉センター  
12/9 (土) ことば蔵 12/22 (金) わかばこども園

【岡田家当番】12月3日まで実施



11月6日のガイド風景

## 今後の予定 (2月～4月)

【定例会】・2/13 (火) ・3/12 (火) ・4/9 (火)

【史跡ガイド】・2/3 (土) Aコース (歴史散歩の会 大阪市)・2/12 (月) 旧岡田家住宅他 (観光協会 西宮市)・2/18 (日) Aコース (個人 神戸市)・2/24 (土) 第4回市民ガイド (行基の足跡と西部地区)

【学習支援班】紙芝居公演 3/23 (土) ラスタこども寺子屋

【岡田家当番】令和6年4月から実施予定

## 第29回文化財ボランティア養成講座

第29回文化財ボランティア養成講座は1月9日(火)から始まりました。

講座内容は下記のとおりです。

- ・1/9 (火) オリエンテーション ・1/16 (火) 講座1「市域をはしる路(みち)①」～陸路と川～
- ・1/23 (火) 講座2「市域をはしる路(みち)②」～線路と空～
- ・1/30 (火) 講座3「古墳時代から奈良時代の伊丹」～猪名野古墳群と伊丹廃寺～
- ・2/6 (火) 講座4「歴史的建造物について」 ・2/13 (火) 文化財ガイド実習に向けての準備
- ・2/27 (火) 文化財ガイド実習リハーサル ・3/2 (土) 文化財ガイド実習本番と修了式

※文化財ボランティアの会の会員になるためには、毎年1月～3月に開催される全8回の養成講座を受講していただく必要があります。養成講座については 伊丹市文化振興課 文化財担当 (電話：072-784-8090) までお問い合わせください。

## 会報(火曜会通信)はWEB版でご覧ください

伊丹市文化財ボランティアの会員はわが町伊丹の文化財を多くの人たちに紹介、その価値を後世に引き継いでいく活動をしています。会報(火曜会通信)はその活動を記録し、残していく役割を担っています。これまでの100号分すべてはホームページに保存されています。

いつでもパソコンやスマホからご覧いただけますので、ぜひWEB版をご利用ください。

URL:<http://bunkazai.hustle.ne.jp/tuusin/tuushinmokuji.html>